

781

410

沖繩縣の宝庫西表島と健康保険事業
の概況に就て
沖繩縣警察部健康保険課編



0035338000

0035338-000

781-410

沖繩県の宝庫西表島と健康保険
事業の概況に就て

沖繩県警察部健康保険課・編

沖繩県警察部健康保険課

昭15

AGD

781
410

納

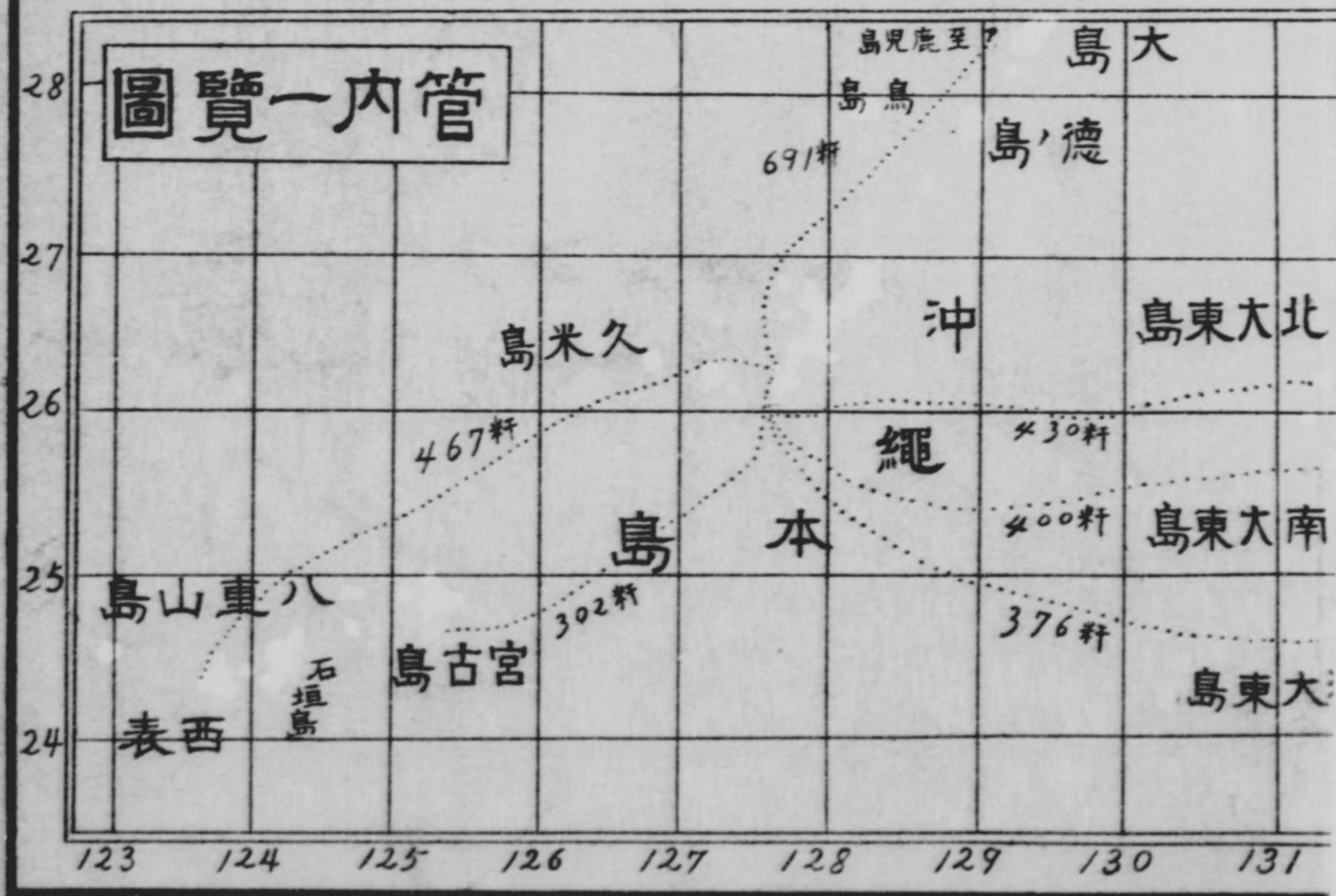
781

110

沖繩縣寶庫西表島と本

健康保険事業の概況に就て

(附改善意見)





沖繩縣の寶庫西表島と

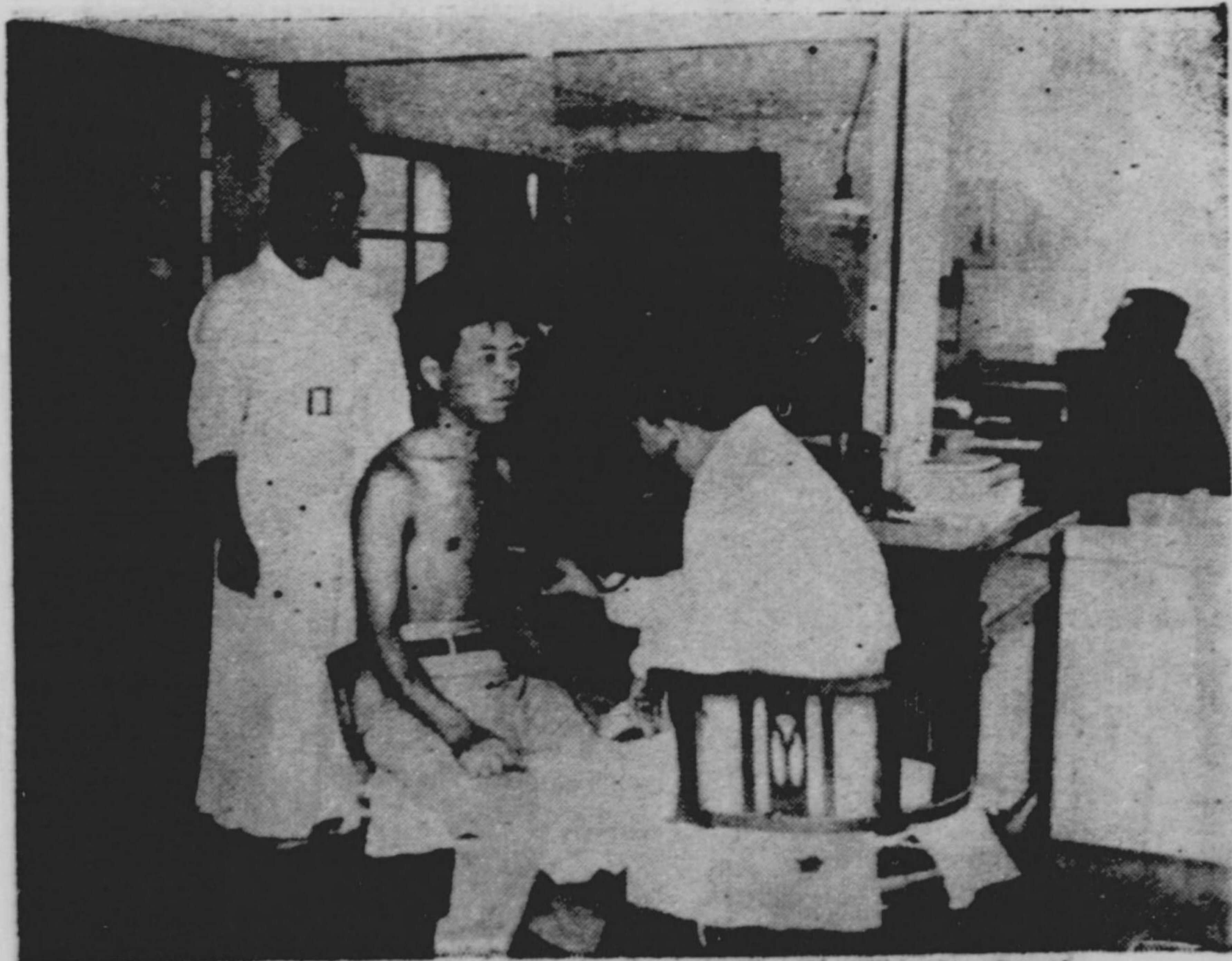
健康保険事業の概況に就て

(附改善意見)

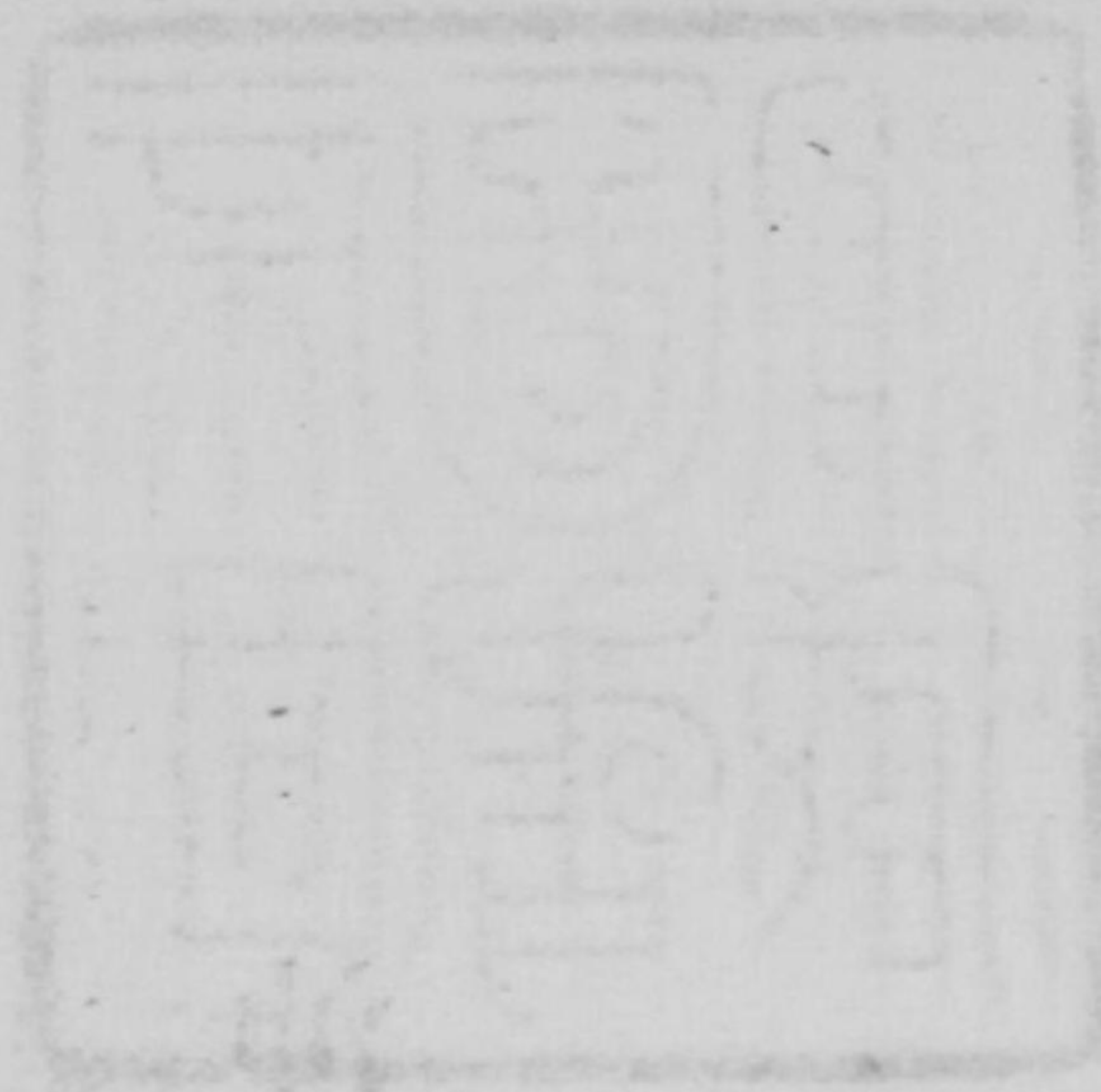




沖繩縣健康保險相談所
那霸市西本町四丁目三十二番地



診察室(被保險者の健康診断の状況)



健康保険協会の業務の進捗を報告する
（昭和二十一年）



所業礦良多宇礦炭三丸的代表るけ於に島表西



(況實の檢鏡料材査檢)室驗試



(況實の行施射照め爲の進増康健)室燈陽太

目次

第一章 沖繩縣の地理的概況……………一

第二章 西表島の沿革……………二

第三章 西表島に於ける健康保険實施概況……………三

第四章 西表島に於ける保険給付狀況……………五

第五章 健康保険被保険者の健康診断上より見たる調査……………七

 イ、腸内寄生虫検査成績

 ロ、マラリヤ後胎症脾腫

 ハ、其他一般病罹病率

第六章 事務的調査より見たる炭鑛經營狀況……………一五



南國西表島カナラ河口に生ずるマングローブ(名一オホヒルギ)の樹に
 しては脚の無数のに出た如き奇異な樹形満潮時に恰も洪水の水が
 林を見がかる如く舟を浮かべ次第に狭く行つて行く江の樹林を委
 靡を眺めると誰かいたるもその味を詠妙の自然の國南うろあのも
 るぞせ歎賞と境仙



西表宇多良川上流に在る元稻葉炭鑛

第七章 被保険者に関する諸事情調査

一八

- イ、被保険者の出身地調
- ロ、被保険者の年齢別
- ハ、被保険者（坑夫）の勤続年数に就て
- ニ、鑛夫募集状況一般
- ホ、被保険者の報酬日額
- ヘ、被保険者の配偶關係
- ト、被保険者の負債額調
- チ、被保険者の教育程度

第八章 炭鑛に於ける保健衛生其他の施設に就て

二九

第九章 炭鑛に於ける被保険者に対する趣味と娯樂に関する施設に就て

三三

第十章 結論

三五

序

沖繩縣は日本南端に位し六十有餘の島嶼より成り蜿蜒長蛇の陣形を爲し北東は與論島奄美大島に依りて鹿児島に近接し南は西表島 與那國島により臺灣に到る他縣より沖繩に至る交通不便は已に贅言を要せず縣下六十有餘の島嶼間の交通亦不便、從而言語風俗習慣の相異なるものを有するに至る、從來爲政者にすら本縣の真相闡明されざるものあり、歴史的積年の疲弊と縣財政の貧弱と相俟ちて一般他府縣人は本縣を以て未開野蠻の小縣と考ふるものすらあり奚んぞ知らむ、此神秘の島沖繩こそ三上參次博士、黑板博士の調査に依れば千年に渉る絢爛たる文化を保有し他府縣に比類なきものを藏すといふ、かるが故に古代日本の眞實なる姿を見出すべく識者の視線を惹くに至りしは決して偶然にあらず、況んや近時支那事變と共に、本縣は國防第一線に位する事となり、一躍日本の中心地となれるに於てをや、則ち臺灣を通じて支那福州に最も近く南支海南島進出等も本縣人の開拓を待ち居る現狀にありて、最有利に大陸經營の發着地ならむとする好箇の地點たるに基き東亞振興、永遠の平和建設に關し日本の大玄關たるの感さへ起り今や沖繩青年の意氣にも鬱勃たる勇敢祖先の靈氣脈々として彼等の脈管に強き搏動を感じしめつゝあるなり。

沖繩縣を以て貧弱なる一小縣となす勿れ、與那國の如き無慮數億噸の石灰を藏すといひ近く大工場の建設さるゝに至るべく、那覇に近き慶良間島に於ては一大銅鑛の産出され其規模の廣大なるは已に人の知るところなり。八重山本島に至りては沃野千里、他府縣人をして垂涎措かざらしむるものあり、予が本篇に於て主として述べんとする西表島に關しては同島が全島に涉りて無盡藏の良質石炭を藏すると同時に本縣に於て多數の健康保險被保險者を有し而も其

内部の諸事情に至りては局外者の窺知するを得ざるものあり、他府縣のものに比し地方的色彩に富める特異の存在にして本縣離島に於ける健康保険事業の概況を髣髴たらしめ得可し、本篇載する所のもの讀者各位に對して他山の石ともならばひとり編者の幸のみならざるべし、記して以て序となす云爾。

昭和十四年九月

大野輝彦識

因に本篇に引用せしすべての統計表は本年三月本縣健康保険課員大舉して西表島に至り親しく調査したる結果たり信を置くに足るべし、公務多忙の爲久しく匣底に藏せしものまゝ湮滅せしむるに忍びず課員諸氏の協力を得て今回之を公表するに至りしものなり。

第一章 沖繩縣の地理的概況



本縣は九州臺灣間の茫洋たる海洋中に散在する六十有餘の島嶼より成り各島の廣袤大ならずして主島沖繩島の周圍も百四里に過ぎず且つ高山大川に乏しく土地低平にして此等群島の東北より南西に延たる姿は長繩若しくは長蛇の洋上を浮ぶと稱して沖繩と謂ひ流蚪と呼ぶ面積約百五十四方里にして海岸線の延長三百九十四里に及び沿岸の屈曲多しと雖も珊瑚礁多きが爲め良港に乏しき憾あり随つて近海遼洋の航路は一二港灣を除いては未だ發達せず特に本縣は夏秋は季節風の影響を受けて航海杜絶を餘儀なくさるる時季あり、颶風は南洋方面に發生して北上し概ね本島近海を襲ひて北東するを常とし冬季は北偏の季節風が優勢となり、暴潮と衝突して海波荒く航海困難を來し天候も亦陰鬱の日多し、如斯一年を通じ其過半数は航海を遮ざる事情下にあり。

噸の蒸汽船及發動機船の就航あるも、海洋一度颶風來り荒濤澎湃たるあらむか、各港共々に貨物の集散を止め風風ぐを待ち活動開始の運となる、更に本縣は管轄區域廣汎に亘る上全島が颶風圈内にあるを以てその暴威に蹂躪さるゝ結果となるなり。

本縣管内に大東島いふ町村制未施行の地、二島あり、一つを南大東島、他を北大東島と稱す、製糖事業を主業として大日本製糖會社の經營に係る又嶺山も有し此會社は全島を支配す、健康保險の適用工場にして、被保險者前者は百餘人後者は九十餘人あり、同島との航海は年二回本島との回航あるのみにて爾餘の航海に對しては同社の備船に依り直接横濱を中心と就航す、從つて本島に於ては同地經由の諸物廻送を見る事多く、不便の地として知らる、尙離島中那覇市に近き座間味村にはラサ工業株式會社の經營に係る銅鑛所あり、三百名近くの被保險者を有するも前記の如く颶風の襲來に對しては何等如何とも爲すべき手段となし、只颶風一過後の平穩を待つのに過ぎず、斯くて一度離島に航海せんか近々四五海哩の旅程に於ても一週間位の禁

足は豫め覺悟せざるべからず、勿論時には至極順調平安なる場合もあり、特筆すべきは本縣は四面環海、常夏の國とは稱し乍ら四季を通して四圍の風物變化に富み萬緑鬱蒼として中天高く熱帯樹の繁茂するあたり、前人未開の曠野あるを思はしめ、眺望の絶佳なる所は縣下到處に瞥見するを得、氣温も盛夏の候と雖九〇度（華氏）を越ゆる事稀なり。これ海洋的性質を帯び居るを以て晝間は絶えず涼風を伴ひ來り、地上の熱氣は海上に向つて去り氣温の調節を爲

第二章 西表島の沿革

八重山郡西表島は那覇を距る南海二百九十哩の地點にあり臺灣に近く島の交通は毎月三回乃至四回那覇臺灣間の補定期航路の外八重郡の主都、石垣町を中心とする發動機船、帆船に依り月十數回の運航あり那覇より三泊を以て就航し石垣町より四時間を要す、元來西表島の位置は、日常ラヂオにて御馴染の通り低氣壓の發生地で有名な石垣島の西南方に位し僅に一海峡を隔て、相隣接せるため暴風の一地带にあり、夏期の航海時特に七、八、九月は時々狂瀾怒濤のため難航となる狀況にあり、沖繩本島も然るが如く氣

温の變化甚しく一日中攝氏十度内外の昇降は珍らしからず夏期梅雨期は勿論の事乍ら冬期と雖も急變の温氣襲ひ來り天候險惡の日相當あり、且つ亞熱帯なる爲概して氣温高く雨量多く湿度亦高し従つて風土病マラリヤ、アメーバ赤痢疫痢等の發生には好條件といふべきなり。
西表島は面積二十四方里にして全島殆んど第三世紀層より成り、海岸より隆起せる岩石は四、五の村邑を除き全島を巡る珊瑚岩散在せるを以て眺望絶佳水運の便拓け舟筏の運航に適す、本島の中心部は前人未踏の地、樹木鬱蒼とし

て繁茂し晝尚暗く野豬の繁殖盛んにして飯情匙も横行す、尤も八重山郡のハブは沖繩本島のものに比して毒力薄弱なり、其咬刺後死に至りしもの稀有なりとは實に興味ある地質學上並に動物學上の疑問なりとす、山岳重疊せりと雖も最高千五六百尺を越えず大部分千尺以下なり。

古は西表、古見の二間切に區分され古見最も繁榮したるを以て總じて全島を古見と稱したる時あり、されども今は古見も衰頹し昔日の面影なく、只其名残を止むるのみ、本島の主邑を和納といふ、西岸にあり、尋常高等小學校、縣立マラリヤ防遏所、巡查派出所等あり、一小半島にして三面海を以て圍む、本島の西岸に乙種港灣に屬する舟浮港あり深き處四十尋、裕に軍艦を碇泊せしむるに足る、まことに

良港なり、元來本島には四百年以前にはマラリヤ病なく人口も相當に多く部落も活氣あり殷賑を極めし時代あり、近海の小群島照間、鳩間、新城、黒島の各離島等より農漁民來て農耕漁獵し彼等の分邑せる良土、良田は幸福と健康を以て惠まれ來りしが、外國船寄港に依りマラリヤの侵入となり患者續出、在邑人口漸減の一途を辿り全滅廢村の浮目を見たる部落もあり、現在に於ては二三を除き大方の部落に炭山地带を中心とし形成され、其等部落の住民も専ら採炭を業とするか、もしくは採炭業者を顧客とする漁業運搬業其他の雜業が盛に營まれ、古來未開の寶庫は着々とし其經營を開披しつゝあるなり。

第三章 西表島に於ける健康保險實施の概況

(過去及現在)

健康保險の實施は創始當初にありては全國各府縣共に相當の苦心困難を追伴し來りたる事實を要せざるべし、特に本島は管下適用工場中最も不便な遠隔の地にある爲め本法の實施を試むるに至つては實に豫想以上の困難を見、力闘以て今日に至りたるも尙は完璧を距る事遠き感あり、而

して當時の適用炭礦數は六ヶ所にて被保險者數二百四十名内外なりしが、被保險者は全縣下被保險者總數の約三割を占め保險料は全調定額の二分の一にあたり現在（昭和十四年）は被保險者數四百五十名に達し縣下被保險者總數の一割二分を占むるも健康保險法施行後已に十三年を経過せる

今日、本島程、榮枯盛衰、有為轉變の絶へざる所は尠し。石炭價の惨落ありとせんか又財界の不況ありベニツク襲來ありとせんか資本主と斤先人（請負人）との間には種々取引上忌はしき論争は繰り返され従つて操業の支障より來る鑛主並に斤先人の交替も頻發し失費不利を招きたる事例も相當あり、曩に昭和九年の頃、極度の疲弊困憊に陥り遂に廢鑛の已むなきに至り、十數ヶ年の苦心努力も水泡に歸し二三の鑛主を除き歸國するものを出したる状態なり、従つて被保險者の得喪も頻繁となり其整理に忙殺さるゝといふ次第なりき。

今や多年の苦心は酬ひられ、支那事變以來軍需景氣は澎湃として本島に迫り商取引も活潑となり、操業も活氣を呈するに至り、炭價一躍從前の五倍に昇騰せるを見たる爲め大小十ヶ所の炭鑛は現在盛に採炭に活を入れ鑛夫等は未明より深更に至る迄作業に従事する現況に在り、保險料は従前多額の滞納ありたるを以て之が整理に夙夜苦慮慘憺を嘗め來りたるが、現在に於ては、鑛主等の本法に對する理解も深まり來り、加之資財も豊富となりし爲め、納入成績の好轉を見、順調なる成績を挙げ來りたるは洵に慶はしき實狀なりといふべし。

元來西表島は悪性マラリヤ、其他惡疫跋扈し傷病率の高きこと、沖繩は勿論日本全國中稀れに見るの地なるべく健康

四、

康保險實施當初より今日に至るまで、本縣の保險經濟を會し、昭和五、六年の頃には其極に達し之が對策につき縣醫師會と相協力して善處したる結果は其後幾分好轉しつゝありたるも本島は前記の通りの疾病に基く傷病率の高き事無比今に本縣健康保險經濟の一大脅威たるなり。

保險醫は當初一人なりしが、最近一名の増員を見、醫療を受けるの便益を得たり、昭和五、六年頃までは醫師在住の祖納又は白濱、其他物資集散の中心地を距る事遠き炭鑛には相當多額の療養費を支出せる場合もあり、又醫院には入院設備なき爲め諸種の不便ありたるも、昭和十四年度より入院診療を認むるに至りたり、傷病率の如きも各炭鑛主の資財豊富なる際、出來るだけ衛生施設に全力を傾注せしめ、榮養並に住宅改善、慰安設備等半強制的に實施せしめれば、より以上の實績を挙げ得可きものと信するも、地方廳としては之を強制すべき權限の存せざるは遺憾とすることなり。

本章を終るに臨み、本島に調査若しくは處分整理等の爲め出張を命ぜられたる課員がいかん苦心難行せしかを述べんに、本法施行當初西表島には出張員を宿泊せしむる處なく鑛夫と共に起居する意味にて事務所の一室又は廢屋を借り受け那覇より携帯せる食糧（米、味噌、醬油、罐詰其他）食器、食卓、衣服、寢具等に依り自炊生活の止むなき事情

に置かれし事三、四ヶ年間に及べり。

沖繩本島の農家に至りては、概して人情質朴、純情なるものありて、衣食住の不自由及欠乏も、之によりて、聊か慰めらるゝ事あるも、全然他府縣人より成る工業地帯民の冷酷は忍び難きものさへありき。

昭和七年頃より時勢の進展と要求とは應急宿舍の建設を實現し、公務出張に際しても、宿屋難は緩和せられ、從來の苦慮は幾分減少せらるゝ、只此處に特筆すべきことは、本島所在地が有名なる颱風地帯にして、毎年八、九月頃の暴

第四章 西表島に於ける保險給付狀況

現時非常時局に於て重工業は逐次澎湃として起り人的資源の漸養は痛切に叫ばるゝ今日、非常時景氣の波は絶海の孤島にまで及び、軍需資材の提供を都郵を通じあらゆる方面に總動員が行はれてゐる、その除波によりて本島も亦潤さるゝ事は當然なり本島は百年前一外國人によつて採掘の有望なるを認められ來りたるも、諸般の事情によりて放棄され本邦の投資家も遠隔の地、不便僻陬の島として投資を見合せ居りしが、近々四、五十年前より採掘着手を見たのみ、されども其間一盛一衰ありし事は前述の通にして

風時期二百十日乃至二十日の災日前後に出張を命ぜられたる際など課員は悲壯の決意を要するとの事にして、彼等は此際官吏責任の重大さを痛感し、萬難を排して邁進する覺悟を以て奮起するといふ。

従つて該地への出張は課員交替制となり止むを得ざる場合の外此時期の出張は見合すこととせり、かゝる時期の出張は課員に苦痛と苦悶を與ふるのみならずして事務能率あがらず空しく天を仰ぎ雲を恨みて、雨洩る宿舍に無聊に苦しみつゝ、天候の恢復を待つのみなる事多ければなり。

現今窮迫せる國際事情は重工業の加速力度的發達を促し資源の開發と共に本事業の勃興を見るに至りたるは當然の歸結と云ふべく今日に於ては各鑛共に愈々事業盛大になりつゝあり、而して勞務者たる彼等被保險者の數も現在四百五十名を算するに至り、しかるに彼等被保險者の体力は極度に消耗され、榮養不及不良と住宅設備の不良不全、惡疫流行と相俟つて疾病の度増加し、一度罹病せんか他地方に於て數日間を要する疾病も當地に於ては十數日を要する結果となり、保險經濟の痛といはれ、今尙ほ悩みの種となり

五

居れり。

本鑛山の被保険者は入坑當時は非常なる健康の保持者なるも漸次過勞と疾病によりて、潑刺たる意氣消耗し去り昔日の勇姿を留めず、諸種の疾病を誘發し風土病たる各種のマラリヤ、脚氣等の疾病も加つて遂に重病に陥り死を招くもの相當あり、その死たるや慘鼻の極にして之を焼くに家なく、葬るに墓なし、そのまゝ附近の土中に埋葬す、誰れか幾年の後その人あるを知らむや、弦月ひとり其幽光を彼

の土饅頭の上にとゞくのみ。

保險課に於ては此等の被保険者の保健施設に就ては絶へず意を用ひ來りたる處なるも現在、都會在住者に厚く地方僻遠のものに薄き實情にあり、況んや孤島にある彼等は交通不便の爲め保健施設を充分利用する能はざるは遺憾とする所なり、従つて、あらゆる機會を捉へて彼等の福利保健を考慮し祝福を均霑せむ事を念願しつゝあり。

昭和十三年度工場、事業場（炭鑛）保險給付費對照比較表

種別	工場	被保險者數	醫療費	齒科醫療費	現金給付額			總合計	被保險者一人對給付金額
					傷病手当金	埋葬料	分娩費		
事業場	炭鑛	四六	〇、一三	四、四一六、七八〇	〇、一八八	九、五三八、九〇〇	五、五三六、〇〇〇	六、一三三、五七〇	〇、五五〇、〇五九、三五〇
工場	炭鑛	二、一三二	〇、八八九、〇四五、〇〇〇	〇、八三三	一、六六六、四六六、五三三、三三〇	八四九、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
合計		二、一七八	〇、九二八、〇四五、〇〇〇	五、二八三、二四六	一、六六六、四六六、五三三、三三〇	八四九、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇

昭和十三年度工場事業場（炭鑛）保險料收納狀況

種別	工場事業場	事業場（炭鑛）	工 場	合 計	調 定 濟 額			全額トノ率	備 考
					收入	支出	差引		
					九、〇七四	八三〇	九、〇七四	〇、二一	
					三三、八九〇	四三〇	三三、八九〇	〇、七九	
					四一、九六五	二六〇	四一、九六五		

保險料收入ヨリ保險給付差引殘額 五千八百六十一圓〇五錢
 保 健 施 設 費 六千六百七十二圓也（健康保險相談所經費ヲ含ム）
 保險給付總額ニ保健施設費加算 四萬二千七百七十六圓二十一錢
 總 收 支 差 引 不 足 額 金八百十圓九十五錢也

第五章 西表島に於ける被保險者の健康診斷上より見たる調査

本島は前記の通り交通不便加之悪性風土病横行するを以て一般に農耕に適宜なる、土地少く土着民亦農業に依存の道を失ひ、若き青年男女は縣外、海外に離陸し殘留の農民

は未だに原始的農耕に依り生計を維持する狀況に在りて年々歳々膨脹し來る人口對しては局地的に需給の合理化を圖らざるべからざる事情に在り。

炭坑に於ては各事業主に於て食糧品其他は那覇臺灣八重山島石垣町方面より購入し各業主の配給に依つてのみ生活維持す、丸三鑛業所に於ては金券類の切符を各一錢、五錢、拾錢、五拾錢、一圓と定め、賃金、商品の賣渡は常に切符に依りて取扱はれ随つて現金の取引なきを以て偶然的に外來の來客に對し金員を差出され釣銭を要する場合は釣銭に相當する品物を渡す事となる等萬事如斯、商取引の別天地を爲し居れるも、丸三鑛業所以外には直接現金の取扱をなし居れるもあり、されども、すべての鑛業所を通じて共通なるは配給品全部は事業主の掌中であり、會計全部を握り居りて坑夫の生活は絶對的に事業主の手中にありといふも過言にあらず、此等の配給部以外に於て物資を供給するものなければなり。

すべての坑夫は早朝未明より薄暮に至る迄營々として肉體的勞働に従事したる後の唯一の慰安は之を飲食物に求むるものにして宵越の金は持たぬがその常態なり、貯蓄心なしといふにあらず、中には相當な貯金を爲すものもあるも概して貯蓄なきが如し、これは彼等としては比較的重き負債あると自棄自暴も相俟つて之を助長す、飲酒を爲すは彼等の常習にして飲酒せざるものは例外に屬す、公休日の大牛は暴飲暴食を以て終始すといふ有様なり従つて健康を害す

るものは消化器系統の疾患大部分を占むべき筈なるも必しも左にあらずして、諸種の疾患を包括す、今回も試みに腸内寄生虫の有無種類等を検査し此等を驅除する事により体力保護及向上を圖りマラリア后胎症たる脾腫の有無及程度を検しこれに善處すべき對策を考慮し尙ほ一般疾病に就きても調査の手を伸べ、保健衛生施設上或種の示唆を與へ得べきものあるを知したり。

イ、寄生虫検査

検査方法 氏名年齢を表記せる状態に封入せる貝殻を被保險者に配付し前晚又は検査當日早朝排出せし糞便、拇趾頭大を貝殻に採取せしめ再び袋に封入して提出せしむ。

術式 検査はすべてアンチフォルミン依的兒集卵法に依り。

検査成績 検査人員は男二百三十四名女一名合計二百三十五名にして年齢は十六歳より七十歳までを含有す。

検出せし虫卵の種類は十二指腸虫、蛔虫、鞭虫、東洋毛線虫の四種ありて虫卵保有者は検査人員二百三十五名中百八十五名にして七八、七二%に相當す虫卵種別及虫卵數を表示せば左の如し。

虫卵種	虫卵數	⊕	⊕	⊕	●	合	計
十二指腸虫	七〇	四六	一七	四		一三七	
蛔虫	二七	六	一	〇		三四	
鞭虫	八六	九	〇	〇		九五	
東洋毛線虫	七	〇	〇	〇		七	

註、⊕は一標本に虫卵一ヶ乃至二ヶ、⊕は一視野に一―五ヶ⊕は一視野五―一〇ヶ⊕は多數、虫卵別に感染率を見るに十二指腸虫は百三十七名五八、二九%にして過半数を占め、鞭虫は九十五名四〇、四三%の高率を見、蛔虫は三十

四名一四、四七%にして沖縄縣蛔虫卵保有者の平均率六〇一七〇%に比して低率なるは注目し、十二指腸虫卵の高率なるは驚く可きものにして今之を比較研究せんに左表の如し。

日本全國ニ於ケル十二指腸虫卵保有者検出表

調査時	調査者	調査地	十二指腸虫卵検出%	備考
大正十三年乃至昭和三年	衛生局	一般住民 市街地住民 農耕地住民 山間地住民 海岸地住民	二二、二二 七、七三 二九、四三 一六、七〇 一六、五八	以上成績を通覽するに西表島の検出率が如何に高率なるかを物語るものである

昭和八年	衛生局	全圖納	一六、一八
大正十三年乃至	松下正信	福岡鐵山監 督局管内	四三、七 坑外夫三一、七 坑内夫四八、六
昭和六年	社會局	全被保險者	四、九九
昭和十年	江上信之	三池鑛業所	一三、四 坑外夫七、三 坑内夫一四、五

實に十二指腸虫病は一名鑛夫病とも謂われ本島の被保險者間にも甚しく蔓延し居る事實を知る事を得。

思ふに本島は北緯二十四度の大洋中に存する一小島にして亞熱帯に屬し雨量豊富にして湿度高く常夏の海洋性氣候を有し寄生虫の蔓延に好適地たるべし。

被保險者は衛生的思想に極めて幼稚なるのみならず常に裸体、地下足袋或裸足にて作業を爲し坑内到處にて排便するは勿論、不潔は常習となりて意に介せず渴に任かせて生水そのまゝ飲用す、沖繩本島の農民の寄生虫検査の成績も十二指腸虫卵に就て見るに近來低率となりたる傾向あるも地方によりては尙ほ五〇%前後の高率を示すものもありて生活方法の類似せる事並に日常生活の不潔なるを想はしむ、蛔虫卵検出率低度なるは本島西表島は各鑛地共に小高き山岳重疊し耕地狹隘、農耕を營むもの尠く、従つて農作

物も少く菜食欠乏、新鮮なる野菜を攝取し能わざる事を物語るものとす。

十二指腸虫病性病性貧血に就て

十二指腸虫病の主要症候は胃腸症候と貧血にして該虫卵保有者百三十七名中貧血を呈せるものは五十七名四一、六一%貧血なきものは八〇名五八、三九%なり、本虫症に依る貧血は本虫が宿主の血液を吸ふ爲に起る慢性血液損失と本虫の産成する物質に基因する造血障碍に依るも少數の本虫寄生によりて已に著名なる貧血を呈するものと、寄生虫多數なるにも係らず貧血を呈せざるものとあり、個人的素因も關係すべし。

健康診断を施行せる總人員四百十名中貧血を呈せる者は百二十五名三〇、四九%にして此内虫卵検査を實施せるものは七十六名なり。

此七十六名中十二指腸虫卵を検出せしものは五十七名七五・〇%なりき。

此等貧血者の大部分は十二指腸虫卵保有者なるも、本虫卵保有者必しも貧血を呈せず、寧ろ貧血を呈せざる者は、貧血を呈するものより多しといふ結論に達する次第にて感染後日尚ほ淺きか寄生虫數少きか或は個人的素因に依るものならむ、本島の貧血者は、十二指腸虫のみより來るにあらず、マラリヤ病と合併したる十二指腸虫病又は單獨にマラリヤ病者に來るところの貧血あり、二者共に高度なる時は悪性貧血の症狀を呈し血液所見に於て血色素、赤血球は著しく減少するも白血球は略通常(1:60 1:100)赤血球の未熟型(有核、多核)異形異大赤血球等を認め、此程度は二者合併する場合一層甚しきが如し。

ロ、マラリヤ病殊に其發胎症脾腫に就て

本島に於けるマラリヤの發生は今を距る四百年前、外國船の寄航せるに始まるといはれ本島の被保險者はマラリヤに依る罹病率高し、被保險者は衛生思想幼稚なると其他の事情によりマラリヤに感染したる場合、服藥するも熱發作去るを以て事足れりとし徹底的治療を受けず慢性症に移行し且つ頻回感染する事によりマラリヤ性脾腫を來せる者多し、即ち檢診人員四一〇名中脾腫を證せし者は一一四名二七、八〇%なり、脾腫の程度は種々にして左季肋部に右手指を壓入し深呼吸を營ましめたる事に依つて僅に其下縁を觸るより大は臍下四指横徑に及ぶものあり、左の大きは左季肋弓より横指徑數にて算定せり。

檢診數	脾腫患者數	一横指徑以下	四……………以下	七……………以下	七……………を越ゆるもの
四一〇	一一四	二四 (五、八五%)	五七 (一三、九〇%)	二五 (六、一〇%)	八 (一、九五%)

マラリヤ病の既往症を有する者は三〇四名(七四、一五%)

にしてその三七、五〇%に於て脾腫を證明し得たり。

各炭鑛別マラリヤ脾腫並腸内寄生虫卵保有者表

鑛名	種別	検査人員	脾腫數	百分比	腸内寄生虫卵	同検査人員	感染率
南海炭鑛	丸野坑	六〇	三八	六三%	四六	五〇	九二、〇〇%
同	東坑	九	五	五六%	四	四	一〇〇、〇〇%
同	崎山坑	三三	一七	五〇%	一〇	一四	七一、四三%
同	吉澤坑	二七	六	二二%	一四	一八	七七、七八%
同	一番川坑	四四	九	二〇%	二一	三四	六一、七六%
同	南風坂坑	一六	三	一八%	一三	一四	九二、八二%
丸三鑛業所		一四七	一〇	六%	四二	五六	七五、〇〇%
星岡鑛業所		三三	一〇	二九%	二三	三〇	七六、六七%
沖繩炭鑛	謝景坑	一一	七	六三%	八	九	八八、八九%
南海炭鑛	東山坑	三〇	九	三〇%	四	六	六六、六七%
計		四一〇	一一四	二七、七%	一八五	二三五	七八、七二%

以上の表を一覽して直ちに感ずる事は、以上の炭鑛中衛生設備の最も勝れたる丸三鑛業所が脾腫患者最低率なる事なり、他の炭鑛が衛生設備皆無なるに反し丸三にては一部防蚊宿舍を有し排水に注意し醫局を有し専任醫療主任あり

て治療に誠實なる事を擧ぐるを得可し、腸内寄生虫卵保有者數に於て高率なる丸野坑、東坑、南風坂坑、謝景坑の如き各自坑夫達が貧困と不潔と無自覺とにより最下層の生活線上に喘ぎつゝあるものゝ當然受く可き歸結と認めらるゝ

なり、希くは資本家は人道上より見るも彼等坑夫を此病苦と貧困の二重壓より離脱せしめ榮養を改善し明朗なる住居を與へ、病めるものは徹底的治療を受けしめ、自利、利他圓滿せられむことを望むや切なるものあり。

ハ、一般的健康診断

健康診断を施行せる者は男四〇五名、女五名合計四一〇名にして年齢は最少一八歳最高五九歳なり、發見せる疾病左の如し。

病名	患者數	百分比
脚氣(潜在性ヴァイタミン欠乏症を含む)	七八	一九、〇二
結膜炎及トラコーマ	六九	一六、八三
其他眼疾患	一〇	二、四四
皮膚疾患	二二	五、三六
喘息(氣管支性)	一一	二、六八
外傷	八	一、九五
關節ロイマチス	七	一、七一
齒牙不良	五	一、二二
感冒	五	一、二二

肺尖	加答兒	咽頭炎	胃腸カタル	マラリヤ發作	僧帽辨膜閉鎖不全	其他	合計
四	四	四	四	四	一	八	二四〇
〇、九八	〇、九八	〇、九八	〇、九八	〇、九八	〇、二四	一、九五	五八、五四

以上の外に複視を訴ふるもの三名ありたるも眼球震盪症は一名も發見し得ざりき、次に脚氣患者多數なるは注目に値す、本島に於て斯く多數の脚氣患者を出すは氣温高く湿度高きが上に、臺灣より輸入する等外米に加ふるに新鮮なる野菜に乏しく、主として腐敗に近き罐詰類を食するに依る、農耕地域寡少なる爲め野菜を得るに難く且つ頗る高價なり、魚類といへども職業的漁夫少く従つて新鮮なる魚を味ふこと難し、幸に大漁の日といへども冷蔵庫の設備なきため干乾するの外なし、マラリヤ其他諸病率高きことも脚氣にかゝる一因として亦否定し得ざる要因なるべし。

此等各炭礦に於ける各被保險者の体位向上に關する私見を披瀝せんは人的資源の確保の急務にして被保險者の傷病

を豫防し体質の改善を圖り又一度傷病に侵かざるゝも速にこれが恢復を計り以て生産力の擴充に努むべきなり。

腸内寄生虫卵保有者に對しては、毎年春秋の二季寄生虫豫防週間の如きを設け定期的に檢便を爲し、蛔虫卵保有者にはサントニーネ若くは沖繩産海人草を服せしむ、從來沖繩縣下の舊慣として豚肉に混じ海人草の雜炊をつくり一家悉く之を喫食するの風習ありて春秋二期之を勵行し良果を擧げしを沖繩の古老にきく、此風習次第にすたれたるは慨嘆に堪へざるなり、十二指腸虫の驅除にはネマトールをよろしとす、尤も醫師監督の下に之を施行す二、三回にて全治す、更に再感染を豫防するためには、映畫講演其他の方法にて衛生思想を涵養し且つ事業主の認識を深め坑内外の下水設備等の改善を實行せしむ、特に坑内便所の設置は急の急なるものなり。

次にはマラリヤ病に對する處置なるが沖繩縣には大正九年八重山郡にマラリヤ防遏所を設置し、發病患者並に檢血の結果、病原體所有者に對し強制的にキニーネを服藥せしめ、タブミン魚を養殖して河川に放ち、蚊族の撲滅に資し衛生講話その他の宣傳方法を以て民衆の理解と認識を深め來り、宮古郡も遅滞ながら大正十四年よりマラリヤ防遏所設置、鋭意惡疫の掃蕩に懸命の努力を擧げ來り製糖工場の設置と共に雜木叢林の伐採排水工事等により、從來のマラ

リヤの牙城たりし村落も健康村と化せしやの感ありしも、依然週期的にマラリヤの大流行を見、相當の死者さへ出す事ありて縣當局の努力を嘲笑しつゝあるが如く見ゆ。

從來の對策上の欠陥はマラリヤ防遏事業の彌縫糊塗的にしてマラリヤ防遏は名稱とは相反し全然無力なる事これなり、蚊族を掃蕩すべくして町村の同意なくしては排水を整理し森林を伐採する力を保持せず、民家に蚊帳の用意を強制するの權能なし、民家の蚊帳は悉く破綻百出して防疫防蚊の任を全ふするものなし、發熱患者にキニーネを授與するは事實なるも、一時下熱せば直ちに服藥を廢して又願みず、いかに強制せんとするも、副作用（頭痛、胃腸障害）ありて繼續服用に堪へずといふ、かくしてマラリヤ病原體所有者は益々加はるの一方にありて、檢血後のマラリヤ病原體所有者と相和して其意義を重大ならしむるものあり、後者も當然全治せしむべきものにして、半治の状態に於ては細菌保有者と同様危險至極のものなり、然るに此等無熱のマラリヤ病原體保有者はキニーネ等の服藥を絕對に肯んせず、幸に説得其効を奏し服藥するに至るも正規のクール（治療）を受諾するものゝ如き蓋し曉天の星のみ、現在の制度下に於てはマラリヤ病は永遠に消滅する時なかるべしと思はる。

現在の八重山、宮古マラリヤ防遏所は、風土病研究所附

屬マラリヤ治療所となるべきものにして、先づ吾人の努力は病者及び病原体所有者の上に集中せらるべきものにしてマラリヤ患者の療養所を設置し縣下の病者を隔離收容するを上策とす、而して此等の患者は徹底的根本的に病原体を皆無ならしめざる以上退院せざらしむる方針の下に治療を施すべく、従來の檢血主義を治療主義に變更すべきものとす、蚊族掃蕩の如き第二義的のものにして、文化の進歩發達は必らず彼等の害毒を封じ得るものと信ず。

尙被保限者の趣味の向上を圖る爲めに高尚なる娛樂機關を設置せしめ、飲酒泥酔、此醉漢を襲ひ來る蚊族に螫刺を擅にせしめず、出來得べくんば飲酒の如き惡習を矯正し、それに依る剩餘金を以て合理的榮養食を攝らしめ、毎月數回名士精神家を聘して道話を聽き靈界の神秘に耳を傾けしむる等彼等の肉体の向上に貢献すると同時に靈性の覺醒を促す事も徒爾ならざるやに思はるゝなり。

第六章 事務的調査より見たる

炭鑛の經營狀況

本調査は各炭鑛被保險者各人に付訪問を爲し彼等の答辨によりて記載せるものなるも、必要なる事項に對しては事業主の調査による材料等を徴し統計的に集録觀察したるものなり、便宜上左記項目に頗ち記述する事とせり。

炭鑛事業經營狀況

炭鑛は各坑共皆手掘に依り採炭し居り他府縣大炭坑の如く機械掘に至るまでには、今後十四、五年後の事と思料す、就中西表島炭坑中の代表的なる丸三鑛業所に於ては目下坑内の悪水並に炭車引上げの機械装置を爲し、將來は機械掘の目標の下に計畫を進め操業を爲し居るも一般として機械

掘の實現は遠き將來に屬す。

該地各鑛の主要坑路は高さ約五尺六寸乃至六尺幅九尺位の所の中央より炭車の軌道が通り石炭並に運水に便せり、坑道の天井は殆んど岩盤石若くは硬土にて崩壞の恐れ毛頭なきまでに設備され、臨坑道も三つ乃至五つ程開鑿せられて幾分本坑道よりは低きも作業には差支なき様態なり。

眞裸体の被保険者二人が一組となつて細い光の探照燈を的に切羽より探炭まで爲しつゝある實景を面のあたり目撃したる予等にはモグラの土堀の感を與ふ。

此處に於て熟練、未熟練者は充分選別され彼等の探炭技術に依つては一日三圓程度となるもの或は一圓程度のもの等格段の相違を生ず、坑内に於て彼等作業夫は身を縮め背を屈して小鳥の巢造りそのものゝ如くに或は一脚を突き出し或は後退躡居の態勢をとりつゝハンマーを打ち込む精一杯の力は粉炭と共に塊炭の剝落する音と相合して悲壯の交響樂を奏せしむるやの感すらあり、致々として働く彼等の健康なる筋肉は隆々として躍動し珠玉を爲す流汗滴瀝として全身を落下し來る、誰か勞働を神聖ならずと謂はむや。さり乍ら炭層の厚き時は作業上比較的平易なるも、炭層稀薄となるにつれ、次第に坑道も漸次狭少となり、作業能率も低下して稼高則ち賃金に多分に影響し來る、勞多くして得る所少く、生活上の收支は其平衡を失ふ事となり、負債を有するに至る、由來彼等の所得を支配する制度が請負作業なるが故に、彼等自身の健康といふ事が前提であり、先決さるべき條件なのである、鹿を追ふもの山を見ず、探炭のみを見て疾病といふ大障害物の横たはり居るを知らず。彼等一ヶ月間の作業能力は如何といふに概して十五六日間就業し得れば比較的良好の方にて一ヶ年中半年を通して

病氣に依る作業不能、則ちマラリヤ、脚氣、感冒、急性腸加答兒等に依り坑夫全員の味ふべき疾患は週期的に彼等を襲ふべく待ち受けて居るのである。

坑夫の就業時間は業務の種別毎に相違あるも探炭夫は殆んど同一にして朝五時に起床六時に始業し十二時坑内に於て晝食し午後五時乃至六時に作業を終了す、作業に對する規律訓練は事業主毎に特色を異にし實施の方法程度に幾分の相違あるも、概して非常時局の影響を受け緊張し居り、非常色多分に旺盛す。此等被保険者の慰安は月二回の公休日を以て充てらるゝも、此日は同室の友と相擁して酒を飲み肉を食するを以て無上の快とし慰安と心得て居り、此等の食糧品並にアルコール飲料は各鑛共其直營の配給部によりて支給せられ民間より多少高價なるは當然なり。本島の石炭は沖繩縣産物中の大宗にして其一ヶ月の産出炭額は四、二〇〇〇〇噸年額四、五〇〇〇〇噸に上り、之を那覇市場の時價に換算すれば優に百二十萬圓となり、昭和十二年度沖繩縣生産物總額の五十二分の一に相當す、僅々四百五十人内外の被保険者の力により斯の如き年産額を見る事實に國家産業に寄與する所多大なりと謂ふ可し。此等の石炭は直接本縣下の工場その他消費者によりて使用さるゝは勿論、大口は名古屋方面或は香港方面に搬出せ

られ良質炭として聲價を博しつゝあり。西表島各炭鑛出產額其他事業概況調

(昭和十四年三月現在)

鑛名	種別	一ヶ月平均採炭額	坑口數	坑	炭層	就業時間	公休日
丸三		二〇〇〇噸	五	木高六尺二寸 幅一〇尺 坑長二〇〇間	自一尺八寸 至一尺二寸	一番 自午前六時 至午後五時 二番 自午后二時 至午後七時	毎日曜日
星岡		三〇〇〇	三	高六尺 幅九尺 長八〇間	自一尺四寸 至一尺八寸	採炭 自午前六時 至午後五時 仕練 自午后七時 至午前五時	毎月一日 十六日
崎山		三〇〇〇	二	高五尺三寸 幅八尺 長一〇〇間	自一尺二寸 至一尺五寸	自午前六時 至午後五時	毎日曜日
東山		二三〇〇	一	高五尺八寸 幅九尺 長二二〇間	自七寸 至一尺	自午前六時 至午後五時	同上
丸野		六〇〇〇	三	高五尺五寸 幅六尺 長三五間	一尺平均	一番 自午前五時半 至午後三時 二番 自午后三時 至午前一時	同上
吉澤		一八〇〇	二	高六尺 幅九尺 長三五間	一尺一寸平均	自午前六時 至午後五時	毎月一日 十六日
一番川		二五〇〇	三	高六尺 幅九尺 長五〇間	一尺二寸平均	自午前六時 至午後五時	毎日曜日
東		一〇〇〇	二	高五尺 幅九尺 長六〇間	一尺平均	自午前六時 至午後五時	毎月一日 十六日
南風坂		一五〇〇	三	高五尺 幅九尺 長一七〇間	一尺平均	自午前六時 至午後五時	同上
謝景		九〇〇	二	高五尺 幅九尺 長一六〇間	自八寸 至九寸	自午前六時 至午後三時	同上
計		四二〇〇〇	二六				

第七章 被保険者の諸事情

1. 被保険者の出身地調

各炭礦被保険者の出身地は北は北海道より南は臺灣に至る全國に跨り凡ゆる住民を網羅せるを見る、沖繩全縣下他に見るを得ざる現象なりとす、此等坑夫の大多數は直接、會社に申込み來坑せるものは極めて少數にして大部分は全國に於ける募集人の手に依りて斷續的に募集されたるものにして、出身地は沖繩縣の二割を筆頭に福岡、熊本、鹿兒島、臺灣、廣島、長崎、愛媛の順位なり。

尤も福岡、熊本二縣出身者の多きは主として事業主が福岡、熊本の出身者多きと其因縁關係により來坑し或は右各縣共に炭坑地帯なるを以て炭礦經驗者の礦夫移動によるものならむ、長崎縣炭礦より移動し來れるもの多數あり。

全國中群馬縣、埼玉縣、山梨縣、三重縣、樺太より來らざる炭礦被保険者地方別出身地調

は地理的關係によるか、募集人の手の伸びざるに依るか、此等の各縣は鑛山事業の發達を見ざるによるか等に屬す。地方別に見るに、九州地方最も多く中國、四國、臺灣、朝鮮の順位となる、只此處に考ふべきはかゝる手近に存在する寶庫を他府縣人の經營に任せ、坑夫も僅かに其二割を占むるに過ぎざる沖繩縣民は何故に遠くブラジル、チリ、南洋と遠き出稼に憧憬するや、祖先以來流浪遠征の血は脈々として彼等の血管に波打つに依る事實は認めざるを得ざるも一面にはマラリヤ猖獗の地帯として人間の住むべきところにあらずとして、恐怖しつゝある事も見通すべからざることにして、八重山移住を獎勵せんとせば、爲政者はまづ、マラリヤ退治に向つて根本的眞正の對策を講せざるべからず。

地方名	被保險者人員	出身地	縣別	内譯
九州沖繩地方	二五〇	沖繩八四 鹿兒島二九 宮崎一五 熊本三三 大分一四 佐賀一三 福岡四三 長崎一九		

地方名	被保險者人員	出身地	縣別	内譯
中國	五〇	岡山九 山口七 廣島二四 島根七 鳥取三		
四國	二五	香川四 德島一 愛媛一七 高知三		
臺灣	二四			
奥羽地方	一六	福島八 宮城一 岩手一 青森一 秋田一 山形四		
東北及中部地方	一五	靜岡三 愛知二 岐阜三 長野一 新潟三 富山二 石川一		
近畿地方	一四	滋賀一 京都一 奈良三 大阪四 兵庫五		
關東地方	一〇	東京三 神奈川一 千葉二 栃木三		
朝鮮	八			
北海道	一			
計	四一三			

2. 被保險者の年齢調

此等炭坑に働く被保險者の年齢を調査するに最年少者十八歳にして年長者は最高五十九歳なり、三十歳前後のもの多數を占め炭坑の中堅を爲す、炭坑別に見るに丸野坑は年長者多く、琉球炭坑と稱せし時代より其儘殘留せしもの多くして彼等は多年勤続者なり、若年者は昭和十二年以來軍

需景氣に依り他府縣より移動し來れるものなり、年長者は土着同化性を有し容易に去らむとせざるに反し、若年血氣の者は宵越しの金なく、自棄自暴せざるまでも好機を見て轉出せむとするは勿論、克己精勵二三百圓を得ばこゝを脱出せんとするもの如し。

被保険者年齢調

(昭和十四年三月現在)

坑名	年齢別		計
	自一 二五才	自二 三五六才	
丸三	二五	五九	一四七
星岡	一〇	一五	三四
崎山	二	二〇	三三
東山	四	一七	三〇
丸野	四	一九	六一
吉澤	五	一四	二七
一番川	二	一五	一七
東	二	一四	一六
南風坂	五	三	九
謝景	一	三	二
計	七一	一六七	四一三

右の表に依つて見るに大多数は二十六歳より四拾五歳までの青壯年階級者にして、採炭作業が此等青壯年階級の發刺たる元氣に依つてのみ成就され得可きものなるかを雄辯

に物語るものとす。

已に老齡に達し病苦と貧苦の二重壓によりて憐むものに對しては眞に同情に堪へず、此等永年勤続者に對して相當

の保護もしくは恩賞の特典を與ふべきは勿論とす、只此點

に對し考慮なきは遺憾とす。

ハ、被保険者の勤続年數調

(昭和十四年三月調)

坑名	期間								計
	一年未滿	一年以上 三年未滿	三年以上 五年未滿	五年以上 七年未滿	七年以上 十年未滿	十年以上 十五年未滿	十五年以上 二十年未滿	二十年以上 三十年未滿	
丸三	四八	四六	一〇	一三	六	一	四	九	一四七
星岡	一七	七	四	一	一	一	一	一	三四
崎山	三三	一	一	一	一	一	一	一	三三
東山	二五	三	一	一	一	一	一	一	三〇
丸野	三	六	一	一	一	一	一	一	六一
吉澤	一五	六	二	一	一	一	一	一	二七
一番川	二一	二	一	一	一	一	一	一	四四
東	五	一	一	一	一	一	一	一	九
南風坂	三	六	一	一	一	一	一	一	一六
謝景	一	二	四	一	一	一	一	一	一二
計	一七一	九八	二七	一〇	一四	三三	一八	三三	四一三

各坑共永年勤続者を有し居るを見れば有病地炭坑とはいひ乍ら外部より想像するが如きものにあらざるべく、一旦

此處を脱出せしものも他日再び古巢を慕ひ來るといふ、而して此處に家庭を築き上げ小供も出來たる人達にとりては

坑名	種別	仕 業	運 炭	採 炭	雜 (役)	平 均
丸三		一、一五〇	一、二一五	一、一三五	八四五	一、〇二〇
星岡		一、二一〇	一、二五〇	一、二六七	九五〇	一、二四八
崎山		一、二七二	一、三〇〇	一、一六〇	一、〇四〇	一、二六〇
東山		一、二八六	一、二二〇	一、一一三	一、〇〇〇	一、一七〇
丸野		一、二六〇	一、一〇〇	九〇九	九一六	九八八
吉澤		一、〇五〇	一、一〇〇	一、〇三六	一、〇〇〇	一、〇三四
一番川		一、二五〇	一、二〇〇	一、二七〇	一、〇二〇	一、二四〇
東		一、二五〇	一、一八〇	一、二二〇	一、	一、二三〇
南風坂		一、二五〇	一、二〇〇	一、一七三	八五〇	一、二二〇
謝景		一、二四〇	一、二二〇	一、二三七	八〇〇	一、二三五

へ、被保険者の負債額

被保険者の借金を調査するに借金なきものは全被保険者の一割七分に過ぎず、借金ありて其金額分明せるもの四割四分、借金高不明のもの三割八分なり、百圓以下のもの二割九分、百圓以上のもの一割五分なり、借金高不明とは罹病等の爲、食費其他の経費を支拂はず事業主との間に精算

未済のまゝなる爲めなり、又募集地よりの渡航費（其際の遊興費等をも含むことあり）等にして、中には逃走を企て未遂に終り其搜索に要せし経費四、五十圓乃至百圓を加算せられたるものもあり。

實に借金は彼等一生の重い負擔であらねばならない。一朝一夕にして借金を作ったものもあれば、相當年月の

中に傷病度重なりて借金し或は利子加算のため増嵩を見るもの等あり。

彼等は絶へず借金の爲めに唸き苦み、又慢性借金病のもはその重壓に慣れ喘ぎ乍ら日常の生計を持続せるを常とせり、此借金病の苦痛緩和剤はアルコール飲料の外に何物もなし、入坑してより飲酒の悪癖に染みし者相當にあり、前述の如く募集地に於て募集人と共に料亭或は待合等にて豪遊し入坑前既に百圓程度の借金を有せるもの相當ありといふ。

被保険者借金調

の間にか思ひも寄らぬ金高となるを以て此等二重負擔の下に過勞に陥り、一度疾病を招来せんか更に坑主より借金の上食糧の支給を受け、それだけ借金を増嵩することとなる其疾病にして早期治療により回復早きものは幸なるも、肺疾患、心臓病の如き回復の見込なきものに至りては惨又惨なるものあり、マラリヤ病の如きも半治のまゝにて就業し反覆罹病する爲め慢性となるものゝ如き、作業能力の低下、賃金の半減以下となり、さなきだに生活苦に喘ぐ彼等の悲惨は蓋し思半ばに過ぐるものあるべし。

名	高	計
東山	一〇	三〇
丸野	一	六
丸三	四	一七
星岡	二	三
崎山	一	三
一番川	三	四
不明	八	一〇
無借金	五	一〇
計		三〇

計	南風坂	東	謝景	吉澤
四	〇	〇	〇	〇
一五	三	〇	一	〇
一七	〇	〇	一	〇
一三	〇	〇	〇	〇
二七	二	〇	〇	〇
一八	三	〇	〇	一
一三	一	〇	〇	〇
一三	一	〇	二	三
二	〇	〇	〇	〇
三九	一	〇	〇	〇
一	〇	〇	〇	〇
四	一	〇	〇	〇
一	一	〇	〇	〇
三	〇	〇	三	〇
二	一	〇	〇	〇
八	〇	〇	〇	〇
五	二	〇	一	〇
一六	〇	〇	三	一六
七	〇	九	一	六
四三	一六	九	一三	二七

ト、被保険者の配偶關係
 此等の炭鑛には妻帯者は絶對的に尠い事は左の統計表によりて明かである。

此等獨身の人達は人生の落伍者にして幾度か浮世の狂瀾怒濤のなかを漕り抜け、謂はゞ着のみ着のまゝ徒手空拳にて乗り込みし者か、或は幾許かの借金を負ひ乍ら逃げる如くにして來たるものもあらむ、又は刑務所の門をもくぐりし體験の持主もあらうといふ譯は、自ら殺人未遂婦女誘拐罪を犯し所定の刑期に服したと自白したのもあつたからである。

ロンプロゾーの所謂生來性犯罪者といふものでないにせよ、此等の人達は一筋縄で往生するやうなポツチャン育ちの人達でないことは首肯される。
 中には幾度も妻帯もし子供もあつて家庭をつくつたもの

が、妻子をふり捨て、か、妻子に愛憎をつかさされ、行詰つた人生の行路を眞の裸力によつて打開すべく懺悔改悔の心情と眞剣さを以て此處に背水の陣を布かむとて此絶海の孤島を選んだ勇士もある、従つて妻帯せぬものが多數あるのも何等異とするに足らないのである。

負債あるものは早く之を皆済し、負債のないものは二百三百と纏つた貯金を得て鑛山といふ地獄の一丁目あたりから引返さうとあせつて居るが、人事百般儘にならぬが浮世の常である、その幾割かが目的を達し成功するか、蓋し颯天の星の如くであるにせよ、彼等の努力は讃むべきものである。

常夏といふ天恵に俗し簡易な生活を樂しむやうになりマラリヤ有病地帯ではあるが、醫者も居り薬も備へてある、對症療法には事欠かぬ、一時の苦痛は救つて呉れる、相當

に注意もし克己養生すれば病氣にかゝらずに濟むといふ衛生の根本義を會得するに至り、相愛する者も出來たとなれば住めば都であつて、第二の故郷である、此處を永住の地とするものもあるわけである。
 家庭を得たものには小供も出來る、次に來る重大の問題は小供達の教育である。炭鑛の資力では學校を經營するだけの餘裕がないのが大多數である、幾多の不便を忍びて租納の小學校に通學せしめたものである、往復とも舟である

から雨の日風の日は遅刻欠席は當然である。
 丸三鑛業所では自費を投じて宇多良小學校を起し、南海炭鑛株式會社は白濱の地に不完全乍ら白濱小學校を建て、附近各炭鑛地の學童を教育しつゝある。
 以上の人達の仲間において負債の返却の見込立たず、貯金も出來ず、家庭による慰安もなく、相愛するものも見出されず、性的煩悶などに苦む人達は相當多數ありて、之こそ炭鑛地方の悪性腫瘍とも言へるであらう。

種別	無配		有配		夫婦のみ	夫婦配	家族配	兒童あるもの	全被保険者に對する無配偶者%
	偶	偶	有	配					
丸三	一三〇	一七	八	九	六	八八%			
星岡	二五	九	五	四	二	七三%			
崎山	三一	二	一	一	一	九四%			
東山	二九	一	〇	一	一	九七%			
丸野	三四	二七	一	一六	一三	五六%			
吉澤	二四	三	二	一	一	八九%			
一番川	四一	三	一	二	二	九三%			
東	七	二	二	一	一	七八%			

南風坂	九	七	三	四	四	二八	七五
謝景	八	四	三	一	一	四	八九
計	三三八	七五	三六	三九	二九	二九	八二

子、被保険者の教育程度

純肉体的労働によりて自己の運命を打開せむと耻と外聞を飛び越へて来る彼等の大部分が無學であるとしても不思議にあらず、又不自然にもあらず、併し義務教育の普及と同時に彼等の教育程度も漸次向上の傾向にあるは事實に

被保険者教育程度調

て、全然無學の者、全被保険者の一割五分を占むるに過ぎず、こは主として臺灣人にして又十四五年前創業時代に來坑せし者に多く、尋常小學卒業以上の者は現在六割二分餘を占め中等學校卒業業者四名もあり。

鑛名	學歴	無學	尋小半途	尋小卒	尋高半途	尋高卒	中等校半途	中等校卒	計	備考
東山		一	八	四	七	一	一	一	三〇	△は女子
丸野		(△)一五	(△)二二	一〇	三	七	四	一	六一	△は女子
丸三		〇	三九	四四	一〇	三二	一	一	一四七	
星岡		七	三	一四	一	八	一	一	三四	
崎山		三	一	三	四	一	一	一	三三	
一番川		一	五	二七	一六	五	一	一	四四	
吉澤		六	三	八	一	九	一	一	二七	

謝景	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一二	
東	九	一	一	一	一	一	一	一	九	
南風坂	二	(△)五	八	一	一	一	一	一	一六	△は女子
計	六二	九六	一一九	四〇	七五	一七	四	四一三	四一三	

第八章 各鑛に於ける保健衛生
その他の施設に就て

坑夫生活にありて最悲惨なるは歴二本腕二本の資本を唯一の生命として働く彼等が病氣にかゝる、而も病むで醫治を受け得ないといふ事である。夫れも彼等自らの不衛生、不品行の結果によるものなれば、あきらめに似たる辛棒も出来るであらうが、それが自身獨りの力では不可抗力ともいふべき病氣にかゝつて苦むのを見ては血と涙のある人間仲間として袖手傍觀し得べきものでない、其結果は資本金自身苦むからである。資本金たるものは全力を擧げて彼等の爲めに豫防の對策を講ずべきものである、又如何なる病氣にせよ、一旦病氣にかゝれる以上これが治療の途を講じ

てやる事こそ親方として又鑛主としての親切であり、仁侠であり、義理であり、人道である。從來此島の鑛主達は薄資乍らも各自醫局を有し巡回醫師を囑託し専任の代診醫を聘置して過去十幾年切りぬけて來てゐる。専任代診醫は勿論無免許無資格者ではあるが、相當の年輩に達し永年の經驗を有し診療には毫も差支ない技術者である、學校出のホヤ／＼よりは間に合ふのであつて、立派に醫師として通用してゐるのである。明治年間醫術開業試験が施行せられ、醫師の玄關番や書

生から苦學力行によりて開業試験を通過して醫師となつたものは澤山ある。世界的の細菌學者野口英世博士なども其一人である。

されども現在は代診生なるものは全然見ることが出来ない。恐らく沖繩のみであろう。現に宮古島池間島に一人の限地免狀所有者、則ち無免許醫者が居る、西表島といふやうな不便の地に代診醫を認める事は致し方ないであろう、尤も全然此代診醫が診断治療をやるといふのではない、巡回して来る醫師により一週一回位は診断も治療も行はるゝものである。

疾病治療の爲め自鎮内に醫局を有し、代診醫を有し(専任)一囑託醫の巡回し来るものに、丸三、丸野、星岡、謝景、の四鎮がある、他の六鎮は南海炭鑛株式會社に依りて買収せられたる結果、自鎮内に醫局を有せず、すべて南海炭鑛醫務局の外來、往診治療を受ける事となつて居る。

西表島の炭層は概して薄く且つ斷絶する事頻繁なる爲め利潤少く、従つて坑夫納屋の如きも遊牧民族が水草を追ふて轉々する如く、炭層を追ふて移動し、長く一箇處に定着せざる爲めすべての施設は簡單粗雑の者にて、大部分のもは單に雨露を凌ぐ程度の設備に過ぎず。

かゝる内にも丸三鑛業所の如きアノフレス蚊族等の侵入を阻止すべく、金網張を有する合宿所一棟を有す、縣下

稀に見る施設として蕪薪を呈するに吝ならざるも、室内狹隘にして採光通風共に不十分なり、そは一室の廣さ四疊半式に區劃されたと、室内の通風も最級最少の金網により採光と共に同様に妨げらる、則ち室内暗くして蒸暑く清涼の感を與へざるなり。

尙丸三の一合宿には汽車、汽船の三等車の如く上下二段のベット式然たるもあり、主として獨身舍と稱するものなり、夫婦舍はアパート式にて自炊をも爲し得る様最もよく整備しあり、丸三、丸野、南風坂のもの最も好し。

丸三を除く他の各坑納屋は棟割長屋式の大小十二三坪の通し部屋にて總体的に室の區切りもなく、疊を敷き詰め全くの大廣間にして、柔道場又は武道稽古場さながらの感あり。

窓口粗漏にして冬期又は暴風雨に際しては充分安眠も得られざる等諸種の不便もあり、則ち彼等多數のものが雜然として群集密居し居るため坐談交話百出して淋しさを感ぜざる點は一利あるが如きも、疲勞し居るものは休養安眠を得ざるの弊あるべし、こは消燈時間制度勵行の爲め自ら矯正さるべきも、一度赤痢、チフスの如き傳染病の發生したる場合、忽ちにして全被保險者に傳染するは必定なり、マラリア傳染の如きも、かくの如き合宿所にして蚊帳の使用不十分なるところに自然流行を見るに至るべきなり。

食堂は丸三のものの稍々整備し衛生的にして炊事献立等も種々新味を見せ、脚氣に備へる爲め七分三分の麥飯を供し(臺灣蓬萊三等米七分押麥三分)副食物も野菜欠乏の地として粗末乍ら苦心の跡を見得るなり、朝食十錢、晝食十錢、夕食は副食物一皿(魚又は肉)を添へて二十錢として、主食、米麥混合二合一食とす。

他鎮に至りては納屋の一ヶ所に土間を設けテーブル式の食卓を置き食器を取揃へ雜然と食事を爲すのみなり。

入浴場の施設は丸三のもの設備完備し、浴槽はコンクリート製の二坪程のもの三個ありて三段式洗身法なり、第一浴槽は坑内より出で來りたる時、まづ炭粉及び汗垢等を洗ひ落す爲めにして、第二浴槽は石鹼をも使用し得て温浴を爲しつゝ更に汗と垢とを奇麗に洗ひ落す第二段の洗身にとりかゝり、第三浴槽にて上り湯となる。

丸三坑の水は簡易水道式にて、山間より流れ來る水を沈澱池に導き更に之を濾過池にて濾過したるものを高さ二十尺位の水壓を利用して浴室並に洗面所に流注せしむ。

水量豊富、混々として常に溢る、別に鐵管に依りて熱湯冷却用に供し居る水あり、或る方法にて「シャワーバス」の装置も出來得る譯にて山狭の底地乍ら四面縁山青丘により圍まれ「マングローブ」樹の間を走る川に沿ふて夏時尙は涼味を喫し得べき此地は西表の温泉場ともいふを得可し。

他坑の浴場は野天に小屋掛を爲し、雨露を防ぐのみにて田舎農家に見る野天風呂に異ならず、衆人環視の間に裸体となるものなるが故に婦人等は遠慮し夜遅く入浴す、されども此地に來る婦人の大半は心も荒くれ居るせい荒くれ男と相伍し、泰山の如く動せざる心臓の強い婦人も相當にありて六尺の男子を晒然たらしむるものあり。

入浴時間は各坑共時間の制限なく男女混浴なるが、近來丸三にては女子は日出前、日没後の一定時間と定め、なるべく男女混浴を避くるにつとめつゝあり。

特筆すべきは丸三の坑夫達の英靈安置所納骨堂を建立し毎日の供養を怠らず、參拜するもの常に絶へず馨煙縷々として二間角の建物にみち渡りつゝある事これなり、毎年九月には慰靈祭を執行す。

丸三の特色として最後に山神大明神を祀りある事なり、時局柄敬神の念を涵養するものとして注目し、毎年九月大祭を執行す。

坑夫達の生活(丸三)(夏八月)

朝五時	第一鐘鳴る、起床の合圖	洗面	食事
五時半	第二鐘	俱樂部前廣場に參集人員點呼	皇居遙拜
六時	就業	山に入る	
十二時	晝食		

六時 山より歸る 食事
 十時 消燈就寢(鐘鳴る就寢の合圖)
 食事 住宅 施設 調

他坑も大体丸三に準據せるものの如きも、不規則なものも相當にある。

鑛名	種別		夫婦納屋數		食	食費	風呂槽數	備	考
	獨身	納屋棟數	納屋棟數	世帯數					
丸三	二	一三八	九	三八	—	四十錢	三	コンクリート	男女混浴
星岡	二	二〇	六	七	—	五十錢	—	—	男女別時間
崎山	四	三六	二	二	—	五十錢	—	—	コンクリート
東山	一	三八	一	—	—	五十錢	二	—	—
丸野	六	三〇	六	二八	—	四十錢	二	—	—
吉澤	一	二五	三	八	—	四十五錢	一	—	木製
一番川	二	四五	一	—	—	五十錢	二	—	コンクリート
東	一	一〇	一	—	—	五十錢	—	—	—
南風坂	一	一〇	三	—	—	五十錢	—	—	木製
謝景	—	一〇	四	—	—	各自自炊	—	—	コンクリート
計	二二	三六二	三六	九六	一〇	—	一四	—	—

第九章 被保險者の趣味と 娯樂に關する施設

抗夫達にして現在此島に來坑せるもの、大部分は社會生存の敗殘者なり、心の内に又魂に傷ける手負者たり、眞の裸力を以て我運命を打開せむとして緊蹙一番せる勇者もあり、何れにせよ傷心せるものは之を醫すべく清新なる慰安と、明朗なる娯樂を興へざる可からず、青年血氣を以て奮起緊張して立てる勇士に對しても、時には其緊張を慰撫し緩和し微笑と満足とを興へざるべからず、彼等を慰安する爲めに適當の娯樂的施設を爲すは、一面彼等を此島に安住せしめ、かねて仕事に對する能率増進にも影響するを以て極めて必要の事と思惟す。

西表の各炭坑は四面環海、山岳急峻、猫額大の低地に住家數ヶ點在するに過ぎざる僻地に散在し、外部との交通も至つて不便の地域にあり、生活様式も單調に流れ嫌意の情起り易きものにして、人間性は常に變化を求めて止まず、明鏡止水の山村水郷にも時に喧嘩争鬪の絶へざるはこの爲なり、況んや常に不平不満の情動易き青壯年の血氣に於ておや。

己に職あり衣食住あり、尙ほ渴して止ざるものあり、これを善導して其興發を避け適度に慰撫緩和するには娯樂に關する施設を爲し、清新高尚なる慰安を興ふる事是也。

憾むらくば、事業主に於て十分なる關心を有し乍ら之を施すの餘裕と資財を有せずして、今日に至れることを。彼等坑夫達は公休日と雖も無聊に苦み積の鬱を散するに由なく、自然酒盃に接近し悪友と交りて彼等の舊惡物語に耳を傾け心の荒涼を増すのみとなる、従つて品性粗野なるものは益々粗野となり、惡には染み易くして、不祥事件等惹起するに至り、往々殺人罪など犯す者を屢々目撃せらる。

丸三鑛業所の事業主野田小一郎氏は早くも之に着眼し、娯樂施設の必要を認め三、四年前より相當の資財を投じ演劇場(三百名位を收容し得べきもの)を設置し、俱樂部と名付の公會堂とも小學校ともなる融通性に富むものを建て又坑夫達より組織せらるる素人芝居劇團に依りて、毎月二、三回開催、毎週活動寫眞を映寫する等彼等の生活を複雑

潤澤ならしめて清鮮の活氣を注入し、兼ねて映畫を通じて慰安娛樂にかぬるに、人間の踏むべき道、勞資協調の理想實現化を説き時局認識にもつとめたり。

他坑には未だかゝる施設なきも、漸次此氣分に向ふべきものと信ず。

被保険者日常の趣味を調査するに讀書を愛するもの五、

三名あり、多くは雑誌等を事業主より借り受け又は彼等の持てるものを交互に貸借回覧し居るに過ぎず、月極にて新刊の雑誌を講讀し居るもの一人もなし、現在事業主に於て雑誌を購入し坑夫達に回覧せしめ居るもの一ヶ所あり、

註 左表は彼等が公休日にて酒以外に耽る所の比較的良趣味に就きて調査したるものを掲げたるものなり。

坑名	種別	園藝將棋	演劇	音楽	釣魚	讀書	合計	全被保険者數
丸三		一八	一二	八	七	一九	六四	一四七
星岡		二	一	二	二	四	一一	三四
崎山		二	一	二	二	五	一一	三三
東山		二	一	二	二	六	一二	三〇
丸野		一	一	一	五	六	一三	六一
吉澤		二	一	一	一	六	七	二七
一番川		三	一	一	五	六	一四	四四
東風坂		一	一	一	二	一	三	九
謝景		一	一	一	二	二	五	一六
計		二九	一四	一五	二八	五六	一四二	四一三

第十章 結論

(改善意見)

以上九章に涉りて、西表島に於ける炭坑々夫生活を赤裸々に讀者各位の前に展開し來りて又餘蘊なしと思ふ、古來南島の寶庫と呼ばれ無盡藏の石炭を埋藏すと稱せらるゝ此島が健康保險の側より見れば正に痛であり、悪性腫瘍であるとはそも何によりて然るや、曰く悪性マラリヤを有し、脚氣を有し、十二指腸虫を有し傷病手当金支拂の高率なる爲めなりとは遺憾至極と謂はざるべからず、由來炭坑作業其ものは大なる危険を伴ふ作業にあらず、純肉體労働にして健康體の持主には僅々の經驗と技術を以て何人にも容易に爲し得べきものなり、若し病氣といふものなくば、身體鍛練、精神練磨の道場として、一定年月日間、青年時代を此處に充當するも決して失敗にはあらずと思ふ、體位向上の叫ばるゝ今日、現代の青年は堅忍不拔の精神を培へ金錢の如き肉體を贏ち得る爲めに、時として、かゝる道場に働

位の覺悟と經驗を有せざるべからず、然るに風土病の爲めに衛生的施設の不完全なる爲めに、體位向上どころか、入坑時捲土重來の意氣を把持し居りし青年にして三ヶ月以後は顔貌憔悴、意氣銷沈、體位低下し來るといふに至りては浩歎を禁ぜざるを得ず、一朝國家有事の秋、兵馬倥傯の間にありて、活躍すべき使命の人、青年を半死半生の病人たらしむるの罪、そも誰れにかある、我等こゝに三思せざるべからず。

抑も其風土病なるものは不可抗力のものなりや、豫防の道なきものなりや、不治の疾患なりや、といふに否々と答へざるを得ず。

回顧すれば四百年前一外國人によりてマラリヤの萌芽を移植されし以來、爾來綿々としてつきす今日に至れるも、若し豫防制度、處置對策の當を得たらむには、左程困難な



問題にあらず、地域狭少、人口稀薄なる此地に於て比較的容易に絶滅を期し得べしと信ず。

從來アノフェレス蚊族をのみ防遏の対象として之を不倶戴天の仇敵の如く思惟し來りしも、アノフェレス蚊族に何の罪がある、此等蚊族中生命を賭して動物血(人間及家畜)を吸引する所以のものは自己種族保存の爲め生血を必用とすればなり、従つて、この勇敢なる蚊族は雌虫に限るとせらる、健康なる動物の血を求めつゝ、偶然にもマラリヤ患者又はマラリヤ病原体保有者の血を吸引するに至るものにして、マラリヤ病原体は蚊の体内にありて一程度の發育を爲し、人間に入り込む準備完了の上、今やおそしと待ち構へ居るとき、その蚊によりて螫刺されたる人間は禍なるかなである、さりとてこれは蚊の罪ではない、元來人間がマラリヤ病原体を有してゐるからである。

敵は本能寺にある、敵は人間それ自身である、まづ我等から病原体を全然とり去るべきである、マラリヤ病人を隔離するか、合宿所におかぬ事である、マラリヤ患者は徹底的に全治せしむる事である。

眞實に自らを思ひ坑夫達を思ふ事業主はマラリヤ患者の徹底的治療並に外面健康者にしてマラリヤ病原体保有者の處置に對し爾今格段の考慮を拂ふべきである。

僅に數日キニーネを投じて熱下降したりとて、治りした

となすは當を得ないそれは病原体(マラリヤ生殖体)を有してゐるからである。

先づマラリヤ患者並に病原体保有者は金網張りの隔離舎に入れて徹底的治療を施す事である、新入の坑夫も檢血の結果、病原体を保有せば隔離舎に入ることは勿論である。事業主達の力で出來そうもなければ、國家や縣の力を仰ぐか補助に依る外はないのである。

脚氣や十二指腸虫病も不可抗力のものではない、十分豫防し得べき疾病である、親切であり、先見の明ある事業主は之を豫防する爲めの衛生施設を惜まないであらうとおもふ。

心臓病、腎臓炎、喘息等の如く非傳染性にして素因素質による體質的の疾病に至つては、或は不可抗力といひ得るかも知れない、さりながらこれとて坑夫生活の不攝生が因となり、果となつて難治のものたらしめるのである。

近き將來此島に大資本家を誘致する様になり、資本家は投資豫算の上に衛生設備費を潤澤に計上するやうになり、事實之を實際化せば、坑夫達も規律正しき生活をするやうになり自暴自棄に陥ることなく、入坑當時の潑刺たる元氣を維持して行けるであらうし、十分なる慰安設備と相俟つて安住の天地となり、夫婦生活も出來るやうになれば、満たされぬ思ひになやむものも少くなり、現在の如き殺伐風景

を演出しないであらうとおもふ。

西表島が健康保險の痛であるなどは、まことに事業主にとりて侮辱的な名稱であるが現在の實情は正にかくの如くである。

悪性腫瘍は尋常な平凡な手段、ぬり薬や膏薬では治りさうもない、一刀兩斷的な處置を必用とする、躊躇逡巡するを許さないものである。

之に依りて西表島に新鮮潑刺たる生命が流注せられ、暗黒變じて光明と化し、前人未開の寶庫も續々とひらかれる事を確信するものである。

かくして健康保險の痛は痕もなく消え去り、花咲き鳥語ふ保險の樂天地が展開するのも遠い事ではあるまいとおもふ。

〔終〕

781
410

沖繩縣の寶庫西表島

健康保險事業の概況に就て [附改善意見]

昭和十四年十二月廿五日印刷納本
昭和十五年一月十日發行

發行所 那覇市美輪橋町一丁目八番地

發行所 沖繩縣警察部健康保險課

印刷者 眞 志 喜 朝 幸

印刷所 尙 文 堂

電話 七二六番

非 賣 品

沖繩縣健康保険相談所取扱事項

- 一、健康診断 (醫師が身体異常があるか、無いかを診察し、体質に應じて保健衛生の指導を致します)
- 二、体力測定 (体重、身長、胸圍、座高、肺活量、背筋力、握力、視力、等を調べます)
- 三、血液検査 (血をとつて嚮毒があるか、無いかを調べます)
- 四、咯痰検査 (肺結核の嚮菌、肺チストマの卵其他の有無を調べます)
- 五、尿の検査 (腎臓炎、糖尿病の有無、淋病や嚮菌等の有無を調べます)
- 六、糞便検査 (蛔虫、條虫、十二指腸虫、チストマ虫卵の有無を調べます)
- 七、血圧の測定 (血圧が高過ぎ低過ぎはしないかを調べます)
- 八、太陽燈の照射 (身体を強健にするため人工太陽燈の照射を行ひ、体質の改善、食慾の増進、安眠、攝取其他諸種の病氣に効能があります)
- 九、看護の指導 (病氣や負傷で療養中のものの看護の仕方を指導します)
- 十、健康保険の指導又は代行 (健康保険のことで疑問のある場合又は諸手續のわからぬ人に懇切に教へて手續をしてあげます)

☒ 健康相談は手紙で出してもかまひません

